

器、農具、畜舎等々一切を完備し、いよいよこれからいふことになつたのが、昨十四年の年末であつたのです。而して私文が、親

内郷村報の

六大使命

- 一、政權政派を超越して、村人愛護主義を標榜す。
- 二、村人公私各機關の活動状況を報導し併せて其振興を計り、進現和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善惡興行を奨励し、惡之を懲罰す。
- 五、本村と本村出身者及本村歸郷者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
從人順天
ルベシ

萬有は天法に歸す

予の人生觀

凡平道人 大内 民惠

これは来る二十四日、教育會館に開催せらる、縣下方面委員大會に、「予の研究」として發表せし爲に、書き纏めた腹案の大要である。

一、緒言

今や我帝國は勿論全世界は、未曾有の時局に當面し、東西新秩序建設の爲に、各自其國家の總力を擧げて獅子奮迅、其光景を想望する時に、吾人は轉た慷慨の感に打たれるを覺ゆるのである。

此時此際、我々國民各自は、確乎不拔の人生觀を確立し、其本分を自覺して、舉國一致、帝國の使命達成に、世界の平和實現に、勇往邁進せざるべからざる。一大責任を有するに、信するのである。

然るに國民の各層を、縱觀し横察するに、確固たる人生觀宗教觀を有する者、それ／＼幾干かあるの感なきにしもあらず、同時に我帝國の眞使命の根本義を、捕捉し得ざる者も、決して少くないと思はれる。こゝに於て予は、其不肖なも願ふ所、三十有餘年來、苦心慘澹漸くにして到達した、予の人生觀宗教觀の一端を、こゝに縣下の選良たる、有識有徳有力なる方面委員各位に、公開披露して、其御批教を仰がうと思ふのである。

二、懊惱煩悶

予は中産階級の家に生れ、物質的方面には、さして不自由をせななかつたが、家庭的にはあまり恵まれなかつた。少年時代は、いつた「人生」といふものは、どんなものであるか、神さか佛さかといふものは、實際あるものかないものか、若しあるとすれば、自分の様な仕合せなものか、救つて下さりませうなものか、考へて、各宗のお寺にも、種々の教會にも出入りして、お坊さん方や、牧師さん方の御説教を拜聴したものである。されど「阿彌陀佛、觀音様、神様(ゴット)」西方淨土、天國等の存在は、どうしても信じてゐない。唯其お寺なり教會なりに入らぬ。徳信の人々の、眞剣、同情、厚意等に對して、身に浸みてうれしく、且つ大なる感銘もなつた。こゝでは

三、轉迷開悟

渡米して落ち付いたのは、マンントンのシヤトル市で、先づ何より先きに、自活の道を講ずるに共、英語の勉強に取りかゝつたのであつた。日本で多少英語の本は讀んで居たが、其英語は更に實用には役立たず、先づ入學したのは、市内上流の夫人令嬢達が、奉仕的に教へて下さる、長老教會の夜學校であつた。先づ發音より日常用語の教授を受けたのであつたが、其日常語中に、ネーチャア(Nature calls)といふ英語に當面した。其直譯は「自然は私を呼ぶ」であるが、其意譯は、意外にも「便所へ行け」ことであつた。

予は此一語を、検討玩味する。其感に於て、然る、轉迷開悟、黎明の感に於て了つたのであつた。我々は其生命を維持する爲に、所要の食物を食ふ。其消化して其内より糞渣を産み、其糞渣は之を排泄する。之が自然の法則である。故に「便所に行く」こと

四、人生觀の確立

歸朝した予は、教育制度改革の資料を得る爲に、一時「早大」に籍を置き、其方面の研究に従事すると同時に、一面自由の立場から人生觀の討究には心魂を打ち込んできたのであつた。而して其得た結果は、かうである。

あらゆる世の所謂既成宗教なるものを通観するに、其開祖は何れも其當代に於ける大智識であつて、其時代の人々をして、首肯させ、信仰させ得る様に、予の所謂「天法人則」を、一種神聖なる「存在」として、それに倣依することに、安んじ立命をさせたものであつた。こゝに其一例を擧げて説明すれば、佛敎に於ける「南無阿彌陀佛」の阿彌陀佛は「天法人則」

終生忘れられない。かくて予は、此世の中には神も佛もなきものか、懊惱煩悶、骨と皮ばかりに瘦せ衰へ、(當時體量十五貫、現時十九貫、壯時二十四貫餘)肋膜炎を犯され、肺炎をわづらふに至つたのであつた。

而して其當時、そうした生活の中にあつて、予の唯一の慰安もなつたものは、予が九年間(小學校で八年間、予の創立した修學塾で一ヶ年)持ち上りて手塩にかけた教子達であつたが、其教子も既に卒業させ、夫々前途向上の指針をも與へて、重荷を下した様な氣輕さを覺え、乾坤一擲、年來研究し來つた教育制度改革問題、多年悩み來つた人生問題、當時の國情から見た移民問題等々について、何等かの示唆、端緒、解決等々を得られなかつた。こゝに、單身渡米したのは、明治四十年の初夏五月であつた。

を、自然が私を呼ぶ」といふ。何たる美しい、且つ徹底した言葉である。こゝに、感嘆の言葉をうした。こゝであつた。而して同時に予は、又我々人間の生涯に於て、もう一度どうあつても、「自然に呼ばれる」ことがある。それは全生活機能、停止した時の「死」である。

我々の生存するこの地球は、太陽系の一遊星であつて、其自轉によつて晝夜を生じ、其公轉によつて四季を生ずる。之も自然の法則であつて、之亦我々は、どうあつても此法則には、無條件で従はさせられる。ひゞり我々人間のみな、地球上のあらゆるものも同様の法則に、絶対に順應した生活をするべきである。さういふ結論に到達し、晝は活動、夜は安眠、所要の飲食物を攝取するに共に、其殘滓は定期に之を排泄し、春夏秋冬夫々に順應した生活を営む事一ヶ年にして、予の健康は全く回復して心身共に爽快、悠々豫定の研究に没頭する事を得たのであつた。

而して予は、其當時より念頭を去來した問題は、我々は萬物の靈長とまで稱せらる、生物中最上位に位する人、社會の一員として、將た國家の一民として、此世に生をうけて居る。こゝに我々は、確乎不拔の法則を見出さなければならぬ。さういふ事であつた。而して其到達した結論を、略述すればかうである。

ものである。さういふことであつたのである。こゝに於て、仮りに其自然の法則には、「天法」とし、其習慣道徳法律には、「人則」と命名し即ち「天法人則に從順なるべし」といふ一語を創作して、之を予の人生觀とし、宗教として信するに至り、愈々益々頭からさなり體量に正に二十貫を突破するに至つたのである。

されど自ら密かに顧みて、世には大學者もあり、大宗教家もある淺學非才の一青年たる、予輩の如き、淺薄なる體験研究が、何等の價値をも認められざるべきを慮り心中に深く之を感して、之が發表を後日に譲ることとして、在米滿三年にして、一轉米領布哇の、ホル、學園長(本願寺別院の經營)にして、當時布哇に於ける最大の日本語學校)に招聘せられ、布哇中學、同高女に關係し、其學務部の視學ともなり、布哇教育會の創立、教科書の編纂等々に、微力を致す。こゝに滿八年餘、其傍ら佛敎兩教は勿論、各宗派の教義及び實際等々に就いて、聊かの研究を遂げて、歸朝したのは大正七年の初春であつた。

與へられた紙面に、たゞ其の卷縮家の其後、山莊の思出等を申上げて、筆を擱めやうと存じます

本報定價 一冊五錢 一ヶ年五圓 郵費在內 廣告費 別議
發行所 內郷村報社
編輯發行所 內郷村報社
印刷所 平活版所

「一面より續く」
であり、「南無」は歸命であり、從順であると同様に、「南無妙法蓮華經」「南無遍照金剛」「南無觀世音」の妙法蓮華經、遍照金剛、觀世音は、何れも之を天法入則と解すべきである。以上之を煎じつむれば、「南無天法人則」となるのである。孔子の「天命」も、西郷南洲の「敬天愛人」も、皆斯く解すべきであると思はれる。

同時に、我帝國の全貌を、竿頭高く日章旗を以て、標榜せらるゝに至つては、轉た八紘一宇、四方海に立ちまわらざらん荒波も我旗風になごまざらんやの感に打たれるのである。

刻下の時局、東西新秩序建設に將た世界の平和實現に邁進するのにも、畢竟するに皆此精神より出發して居るのである。

矢野恒太 大内民憲著
教育制度改革概論
(四六版二二頁 定價五十錢 稅六郵)

て居るから讀んで見よと、理、醫學博士額田晉氏の「人生觀」(昭和九年三月發行)なる小冊子を示されたのである。其巻頭に「私の人生觀」と題する、昭和七年八月十六日朝日新聞所載の、一文が掲載されてあり、且其本文に於ては、流石科學者たる博士は、其順序整然、一糸亂れざる説明を與へられてあつた。再讀三讀、予が貧弱なる體験と知識を以て下したる「天法」の斷案を、徹底的に説明して下さつた様に思はれて、衷心より感謝すると共に、親しく御禮を申し上げやうと思ひ立つたのであつたが、身邊の雜務に追はれて、荏苒其ま、になつて居つた。

五、學者の使命
哲人カントは、深く天體の研究に潛心し、終に「宇宙は無限なり」と絶叫した。同様に我「天法人則」も無限である。世の所謂學者の使命は、其天法人則の研究であらばならぬ、それこそ萬古不變の入りざる、天法人則の未開の境地を、一鍬づ、開拓し、其を以て人世を裨益するの故、其任務であると思はれる。而して其學識一鍬が、所謂博士の價値なのである。

北帝大總長本多博士は、予には宗教はない、たゞネーチャアロー(Nature law、自然の規則)を信するものであると云はれるが、予を以て、云はすれば、それが博士の人生觀であり、宗教であると思はれる。

六、宗教家の使命
次に論ずべきものは、我國宗教家の使命如何といふ問題である。假りに一例を擧ぐるが、文部省最近の統計によれば、佛教各宗派僧徒、四十万七千五百餘人、寺院佛堂、十萬六千餘、住職五萬五千九百餘人と發表せられてある。之に續いて見れば、國民の約半數は、檀信徒と稱せられてあるが、さて其住職、其檀信徒達の、信仰人生觀、宗教觀等は、どうあらうかと思はれて檢討するに於て、勿論中には立派な例外はあるが、殆んど其大部分に對しては、唯唯然たらざるを得ないのである。自餘の各宗教に就いても、予は同様の見解を下して居るのである。同時に予の憂慮に堪へざるものは、上は大學より、下は小學にいたる、國民の教育に従事して居る、約三十五萬餘人の大學生も、宗教家同様、確乎たる人生觀もなく、宗教も無い生活をして居ることである。

七、予の行事信條
最後に予及予一家に於ける、行事信條を説明して置く。それは勿論「南無天法人則」の生活である事はいふ迄もない。

而して其根本信條は「南無天法人則」であるべきことは勿論である。而して予は、予一家は勿論我全村の信仰なのである。此一切を敬愛するの故、予一家は勿論我全村の信仰なのである。

我が教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年、御禮下す實地、御試練ニ基ク眞實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不忠不孝ニ打テ申儀云々

が、親鸞は弟子一人も持たず、總てが御同朋御同行で、手をつないで、阿彌陀佛に歸命するのである。高唱せられ、自ら愚劣親鸞と號せられた、其共學的態度こそは予の隨喜湯仰措く能はざるどころであり、杉田の本宅には、自ら過分と思はれる、佛壇を、又、この假寓には、さうやかな佛壇をしつらへ、其中の一隅には、忘れもせぬ三十有年前。

以上が、予が所謂「一人則」中の道徳習慣に該當するものである。確信する共に、親鸞上人の高風にならつて、予自ら凡平道人と號し、其「天法人則」の行者となり、之に賛同せらるゝ人々を、御同朋御同行とせらるゝべく、研鑽精進する事を、其信條として居るのである。

次に我が家の祖先からの宗旨は、曹洞宗であり、妻の生家は眞宗である。而して予は多年、故新井石禪師の高教を仰ぎ、佛祖道元禪師の「物は總てあるべき様に在ればよいのである」と説かれた、宇治興聖寺の法話を以て、佛教八萬四千法門の、結晶であると思はれて居るのである。又、親、當代の碩學、眞宗の開祖、親鸞上人

日本評論社
發行所 内郷村報社
東京三丁目
東大前

八、結語
以上は、予が所信の大要であつて、一徹一心、この確乎不動の「南無天法人則」を、

念願に堪へないのである。希くは各位！予のこの提唱に對して、御賛同下さらば大に可、奮つて協力せられよ。然らざるも大に可、愚解なき高教を垂れられよ。

於て、名譽の戦死、戦病死を遂げられた、故陸軍歩兵上等兵小林恒夫、故陸軍輜重兵上等兵小川公府君の

宜の爲に、左の各所に指導標を樹てた。
▽白水墓地(願成寺)
▽下綴墓地。
▽高坂墓地(眞光院)

教育制度改革概論

矢野恒太序 大内民惠著 (四六版二二頁 定價五十圓 稅六郵)

一、二面より續く！

八、結 語

以上は、予が所信の要である。予は、一億一心、この確乎不動の「人生觀」を、心身に體得して、帝國の大使命達成に勇往邁進し、世界の平和を招來し、人類の幸福を實現すべきである。衷心より

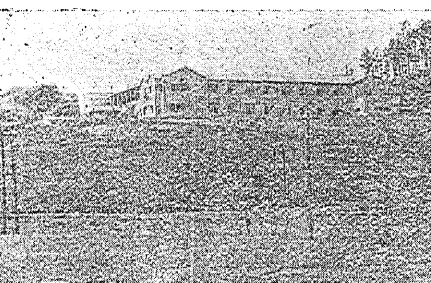
磐城 炭礦 附屬病院完成移轉

磐城炭七千従業員待望の、大病院は、其完成を告げて、此程全部の移載を終了した。今其梗概を左に報道することとした。

其位置は、常磐線綴驛西方約十町、内郷村大字内町地内、住吉綴兩坑の中央丘上で、昭和十三年七月一日に起工し、敷地整理に、將た設計建築に、三年を費やし、去る七月二十一日愈々竣工したのであつて、總經費十一萬五千八百圓を要したのである。

其設備は、敷地一、三〇〇坪、建坪數七〇四坪七合階上二九七坪九四、階下四〇六坪七六。病室數一八室、北側病室五室、輕症患者室一室、重傷患者室一室、八名收容。診療室、内科二、外科三。身體検査室、施術室、婦人科室、準備室、太陽燈室、レントゲン室、藥局室

藥品倉庫、ホール、事務室、消毒室、研究室、従業員浴室、患者浴室、乾燥室、倉庫、炊事室、宿直室、應接室、小使室、眼科室、院長室、醫員宿直室、看護婦室



院病屬附礦炭城磐

付添看護婦室南北、醫務室、洗濯室、燒却場、水呑場、洗面所、以上各一。講義室二、待合室三。

村 葬
八月十五日第三小學校に

行き詰れる現代の教育制度を解體し、學理を實際に、歴史を實際から、新に大内案主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に違あらず。れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年の御體験と實地の御試練とを以て、大精神ヲ拜

發行所 日本評論社
東京京橋三丁目
東京所 内郷村報社

於て、名譽の戦死、戦病死を遂げられた、故陸軍歩兵上等兵小林恒夫、故陸軍輜重兵上等兵岡兼松兩君の爲に、關係者一同参列の下に、莊嚴裡に村葬を執行した。

戰死者 指導標
舊盆に際し、墓參者の便宜の爲に、左の各所に指導標を樹てた。

- ▽白水墓地(願成寺)
- ▽大越中佐外六名。
- ▽宮墓地(瑞芳寺)
- ▽草野少尉外十四名。
- ▽内町墓地(清光院)
- ▽今上等兵外四名。
- ▽上綴墓地。
- ▽松崎二等兵曹外四名。

▽下綴墓地。
▽齋藤伍長外二名。
▽高坂墓地(眞光院)
▽長塚上等兵外四名。
▽御廐墓地。
▽野木伍長外一名。
▽御台境墓地。
▽星上等兵外三名。
▽小島墓地。鈴木伍長。

特志の數々

▽金拾圓、陸軍恤兵部へ渡邊嘉信。▽金拾圓、同愛婦御廐支部。▽金五圓、同鈴木喜美子外十二名。▽金拾圓、同身代地尊祭典費節約東朝經由、眞光院關係一同△金百圓、本村銃後會へ島田兼吉。

舊盆賑恤 村助成會より十二人に對して金一封宛。

教育浪曲 淺野記念館に於て山川八道氏、聽衆約二五〇名。

防空思想 普及映畫會。八月十四日夜金坂運動場に於て開催。入場者約四千二百人の盛況。

本紙贊助金寄贈芳名

- 金貳圓 福島 松田甲次郎
- 金貳圓 平 多田井笑次郎
- 金貳圓 同 折笠鬼千太郎

昭和十内郷村方面助成會收支決算表

收入之部		支出之部	
金八百八十二圓四十七錢	寄附補助金	金三十三圓十錢	貧困者救助費
金五十七圓	縣補助金	金四十三圓二十四錢	傷病兵慰問費
金五十圓	村補助金	金二十一圓五錢	戰死者へ香料
金四十圓八十四錢	預金及貯蓄金	金六十八圓四十四錢	養老院及靜養舍費
金一千四百十六圓十三錢	前期繰越金	金一百十圓	年末給與餅米代
合計金二千四百四十六圓四十四錢		金二十二圓	火災罹災者へ見舞金
		金六十圓	理方面委員大會出席費
		金三十五圓二十七錢	寄附募集費
		金三十圓	縣方面委員大會出席費
		金十一圓八錢	寄附募集費
		金十三圓三十錢	諸費用紙
		金八百七十二圓五十錢	雜用紙
		金一千一百七十圓四十九錢	現金及貯蓄金
		合計金二千四百四十六圓四十四錢	預金及貯蓄金

内郷村方面事業助成會理事 齋藤彌一

續開拓記錄(一)

警城炭礦従業員 大内きみ

一、はしがき
其後は御無沙汰申上げました。殘暑ながりにきびしい折柄、先づ以て皆様の御健康をいのりつ、久方ぶりに、近況を報告させていただきます。

二、御國の爲に
かくて主人は相變らず當地に、其他は山莊にあつて、大いに働かうと、互に意氣込んで居りました。今春三月圖らずも、本縣海外協會の役員會に於て、昨年渡米せられて、具に其事情を觀察して歸られた、理事の大原博士が主人が多年研究して、昨年の理事會に發表した、第二世補選問題や其他の意見に、主人は是非共協會の常務となりて、其理想實現の仕事をやつてもらひたいといふ御希望を、其會議に建議せられた結果主人が其を引きうけ月のうち半分を、縣廳で執務することに、又それと殆んど同時に、知事さんが會長として居らる、本縣協和會(内地人と半島人の協和を以て)の評議員といふことになり、警城炭礦に採用した、百五十人の半島人を預つてもらひたいといふ話が持上り、今迄通りの主人一人丈では、何共致し方がないの、苦心慘愴折角今日迄に、樂き上げた山莊を、閉鎖することは、誠に忍びないことではあつたので、今日の場合、より多く「御國の爲」になるかと思へば、協議は一決して、今春早々山莊閉鎖に取極め、年來我子の如く手馴した、家畜の數々を處理し、土地家屋農具什器等を共儲、御近所の方々に保管方をお願ひして、涙をのんで家族全部が、こちらに引き上げて、以上の事業にせりかゝる事となつたので御座います。

四、一家の團圓
滿五ヶ年の間、私共の一家は、以上の通り南北に二分せられ、一家團圓の樂みを、味ふ暇がなかつたので御座います。思ひがけのない國家の非常時に遭つて、一般の御家庭とはあべこべな、團圓生活にはいる運命に立ち至つたので御座います。それにしても其分丈は、一家緊要して振ひ立つたわけでは御座います。而して前に申した通り、主人は月の半分は出陣し、一郎が副會長といふ格で會務一切を支配し、私は以後後見役といふ形で、由清彦の養育かたゝふみ子(嫁)ととも、庶務會

大内一郎殿
景中御見舞有御禮申上候。一詩を賦して高堂の御清福を奉祈候。父移移民不安、兒勞業極辛難。國家皆悉勞苦事、偏禱一途排萬難。昭和庚辰夏、外山牧風、註、牧風子は愛媛縣總務部長

五、賢二の其後
賢二は、二郎の改名で御座います。皆様からのお便りの中には、又必ず二郎其後の消息は、どうかしたつて申上りますか、其「其後」を一寸申上げておきます。先きに本紙上でお知らせしておいたと思ひますが、中學を出る、兄と志を同うしますので、山莊に引き取つて一年間、開墾に従事されたのでしたが、莊の方針が、家畜本位に決定するに及んで、畜産の研究が必要となつたこと、農立農駒内種畜場に入つて、一ヶ年間の修業をさせ、其後山莊にももつて、働いて居つたのですが、どうしたはづみか、足首をうづつたのがもとで歩行にも自由な感じがなくなつたので、本人は勿論、一家に於ても、これは一大事、早速帯廣市を始めて、近邊の醫師にもかけたのですが、どうしてもよくならなかつた。最後に札幌大に參つたら、靴の底に特製の敷皮を入れて穿き、過激な労働をへしなかつたら、約一年半位でなほさうなりました。當地に歸へり其通りにして専ら静養に努めさせておいたのです。更に効驗がないので、みんな悲觀して居りました。さうなつたので、人に診て貰いたら、之は膝の關節にも、關係があるのだといはれて、一寸手をかけて揉んで下さつたら、それこそ奇蹟的に全快してしまつたのです。

おもひかへせば、中學を出て、「國高」及「實習場」に三年の研究を積み、一移民となつた、長男の一郎に連れそつて、北海道十勝に移住したのは、昭和十年四月から御座いました。而して其五月から十三年の十月迄、本紙上に、「北海道通信」(三回)、「開拓記録」(二十八回)を掲載して、清水山莊經營の概況をお知らせし、一時「歸宅の御挨拶」を、申上げたのは、同十四年の一月で御座いました。其後内外の皆々様から、開拓記録の續編はどうか、清水山莊の其後はどうしたのかなど、頗りの有難い御催をうけて居りましたので、相變らぬ拙筆を運ばせて、殘暑の御見舞をかねて、近況を申上ぐることに致しました。

二、清水山莊
清水山莊は、豫定の通り十町歩の開拓を終り、更に隣接林三町歩を拂下げ、畜産本位の計畫を立て牛馬、豚羊、兎鶏等々の家畜も充實し、其乳牛より搾取る牛乳を清水町の「極東練乳」に販賣して生活の中心資にあつて、漸次其を擴張して、大成を期してまうと段取り、それに要する住宅は勿論、什器、農具、畜舎等々一切を完備して、いよいよこれからといふことになつたのが、昨十四年の年末であつたのです。而して私達が、親

計にあたるといふ、役割なので御座います。但し炊事方手不足の折は、其方にも出動するので御座います。何ぞ申しても、言語風俗人情を異にする、半島の勇士百五十人の御世話は、並大抵では御座いませぬ。然しだん／＼私共は半島語を勇士達に日本語を、覚えて来まして向ひつゝ、漸次和やかに、期さらにたひつゝ、あるや、只今のところでは、さして苦痛を感じず、寧ろ將來が樂しまれるやうになりました。次に皆様に、よく「孫はま一人か」か、おたづねをいたしました。今以て國策にそはれず、一家の痛恨事といはれて居ります。前途はまだまだ、有望遠望で御

座いますから、それを樂しみに、暫らくはお許しを願つて置きます。其一人の孫も、出産當時山莊が寒かつたのが、内地に歸選つたが、湯治其他の攝生がきいたのか、めき／＼と健康を増進し、一丁前の亂暴兒となつておれまはり、明けても暮れても、おばあちゃん／＼と、私につきまきまふて居りますので、勿論うるさくはありますが、又勿論可愛くつてたまらないので御座います。

本紙は、昭和八年一月五日発行
本紙定價(郵金五五)一ヶ年郵費共四八五
發行所 内郷村報社
編輯者 大内きみ
印刷所 平活版所

内郷村報の

六大使命

- 一、政權の變遷を監視して、村の治安を維持する。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、其の實績を期す。
- 三、本村社會事業の進展を期す。
- 四、村内の善行を表彰し、惡之を懲罰する。
- 五、本村の出身者及本村に關係する諸君の功績を計り、其の發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

終生忘れられない。かくて予は、此世の中には神も佛もなきものか、と憤慨し、骨と皮ばかりに瘦せ衰へ、(當時時景十五貫、現時十九貫、壯時二十四貫餘)助腕を

を、自然が私を呼ぶといふ。何たる美しい、且つて徹底した言葉ではあるまいか、と感嘆之を久うした。そこであつた。而して同時に予は、又我々人間の生涯に於て

ものである。いふことであつたのである。予は、こゝに於て、仮りに其自然の法則には、「天法」と、其習慣道徳法律には、「人則」と命名し

内郷村報
天法
人則